

## 大秦景教大聖通眞歸法讚及び

### 大秦景教宣元至本經殘卷について

(圖版第七圖 参照)

#### 前 書 き

唐代に流行したネストル派の基督教即ち景教の漢文經典として今日世に知られてゐるものについては、余はその大略の解説を既に公し<sup>①</sup>、佐伯好郎博士もその大著景教の研究を始め、諸種の著述中に於て論述せられたのであつたが、今またその二種が新たに佐伯博士<sup>②</sup>によつて解説を附して學界に紹介せられたのは、余輩が同學諸士と共に大なる幸慶とするところである。實をいへば余もまた昭和二十年(1945)に、これらの敦煌出土の兩經典の寫眞を原本所藏者なる天津の小島靖氏より贈られて驚喜したのであつたが、原本を見るまでは公表を差控えたいと思ふ點もあつたので、最近に至るまで態と紹介を避けて來たのであつた。然るにこれが佐伯博士によつて逸早く世に傳へられるに至つたので、今は驥尾に附してこれに關する愚見を述べべき時であると想ひ、昨年十月東方學界京都支部の講演會に於てこれを發表したのであつた。こゝに述べるところは大概その際演述したものと異らぬと記憶するが、今夏病を京大病院に養つて居る中に、九月三日の暴風に留守宅を見舞はれ、書齋机上に在つた講演の手記が散亂して今整頓し難い上に、病餘なほ根氣に乏しく、推敲の及ばない點の少からぬのを恐れるけれども、本誌寄稿締切日に